

教授就任に際して

ごあいさつ

塚本真輝 (平成 17 年京都大学理学部卒業)

今年の 4 月に数学教室に着任いたしました。京都大学には、平成 20 年に数学教室の助教として採用していただき、その後 10 年余りの期間を過ごしました。平成 31 年に京都大学を離れて、九州大学に教授として着任しました。九州大学も大変素晴らしい環境だったのですが、今回、縁あって再び京都大学に就職する機会をいただけたことに感謝しております。

学生の際は深谷賢治先生の指導を受けました。様々なことを教わったのですが、現在の私にとって決定的だったのは Mikhael Gromov の論文 “Topological invariant of dynamical systems and spaces of holomorphic maps:I” (1999) を紹介してもらったことです。この論文の中で Gromov は、無限次元空間に群が作用しているとき、「群作用で平均をとった次元」という概念を導入しました。修士の時に、この論文を読むように深谷先生にご指導いただき、それ以来現在に至るまで、ひたすらこのテーマを研究してきました。

高校の頃、カントルの集合論の話を生徒向けの読み物で知り、「無限の大きさを測る」というアイデアに感動したのを覚えています。Gromov の上記の論文も、「無限次元空間の大きさを測る」というものなので、昔から数学の好みは一定しているのかもしれませんが。

非常に幸運だったのは、私が研究を始めた当時、Gromov の論文に関連する研究をしている人はほとんどおらず、競争を意識することなく、参考文献を読み漁る必要もなく、のんびり一人で好き勝手にできたことでした。

このように、これまでは好きなことだけ研究して過ごしてきた人生でしたが、今後、大学の運営に関しては「好きなこと」というわけには行かないだろうと気を引き締めております。日本と言う国家の様々な力が減少していく中で、大学を取り巻く環境が改善することは難しいだろうと感じます。ただ考えてみると、戦争で焼け野原になった頃の日本でも、素晴らしい研究は生まれていました。(確率微分方程式, 繰りこみ理論, 調和積分論, サンプル定理). 外国に目を向けると、監獄の中で生まれた理論もありました。(射影幾何学, ホモロジー代数). それらを見ると、理論科学とりわけ数学は、まだまだ頑張れるという気がしてきます。